

# 令和3年度 学校自己評価システムシート（県立進修館高等学校）

目指す学校像	「進徳修業」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、 明るく活力にあふれ、地域から信頼される学校。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の工夫・改善に努め、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」を支援して確かな学力の確実な定着・向上と第一志望をかなえる進路指導を実践する。</li> <li>2 規律ある態度と豊かな人間性を育み、笑顔で活気のある生徒を育てる。</li> <li>3 地域と連携した活動の推進と教育活動の積極的な発信に努め、地域から期待される学校を目指す。</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 7 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>主体的・対話的で深い学びを支援する授業力向上の取組は、着実に成果が表われてきている。また、保護者学校評価アンケート結果によると、学力向上と進路実現への期待は一層高まっている。今年度は、更なる学習指導の工夫と授業改善を課題とし、生徒実態に即した学習意欲と学力向上を図る。</p> <p>なお、コロナウイルス感染症に係る現状に合わせ、柔軟に対応していく。</p>	<p>学習指導の工夫と授業改善、学習意欲と学力の向上</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①個々と向き合う姿勢を大切にして生徒状況を把握し、観点別評価を意識した学習指導を行う。</li> <li>②主体的・対話的で深い学びを実践する授業や、ICTを活用した授業の研究を推進する。</li> <li>③職員間の情報交換や基礎力診断テスト結果を検証(5月)して、学力向上の指導に活かす。</li> <li>④自ら学ぼうとする姿勢を高め、学力の定着を実感できるように、学習習慣を促す指導を充実する。</li> <li>⑤授業見学週間(11月)や教員研修会を実施して、教員同士の学び合いを充実する。(2回以上)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学習指導の実施状況と成果</li> <li>②授業実践と研究の実施状況と成果</li> <li>③生徒アンケート「学習」に係る項目肯定的回答増加(昨年度比)</li> <li>④家庭学習時間、土曜勉強会参加者状況、成績上位層の増加と下位層の減少</li> <li>⑤見学週間と研修会の実施状況と成果</li> </ol>	<p>〇コロナ禍の状況に対応しながら適切な学習指導を行い、生徒の学ぶ姿勢と学習意欲は概ね良好であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①⑤授業見学週間、協調学習の研究授業(11月)実施、観点別評価研修会実施(12月)、新しい評価基準を入れたシラバスの作成。観点別評価の準備が進んだ。</li> <li>②④学習意欲を育てる指導(肯定的回答86%)、ICT機器活用の授業指導が増加。学習指導に変化がみられる。</li> <li>③熱心な授業実施(88%)、基礎力診断テスト結果研修会(7月12日)生徒状況の把握とキャリア教育に活かした。</li> <li>④家庭学習時間は昨年度横ばい、土曜勉強会はコロナ禍で実施回数減、成績上位層、下位層ともに増加。</li> </ol>	B	<p>・新学習指導要領が年次進行で開始される。目標に準拠した評価・観点別学習状況の評価等、趣旨に沿った指導を行うために、様々な共通理解が必要となる。手順を踏んで、順次進めていく。</p> <p>・学びの多様化に備えICT機器の授業指導を進める必要がある。環境整備に加え、指導法や教材共有など、特性を活かした学習活動が展開できるように検討を行う。</p> <p>・「手引き」や「手帳」に加え、「進路通信」を発行している。継続して進路意識を高め、キャリア教育へ繋いでいく。</p> <p>・学力定着や学力向上を図るため、授業時間以外の学習を充実させる必要がある。家庭学習の指導について具体的に検討していく。</p>
1	<p>学年に応じた体系的な進路指導が組織的に行われ、第一志望やそれに準じた進路先決定が高い割合で実現している。今年度は、生徒個々の状況に寄り添ったより良い進路実現を課題とし、進路指導部を中心に、学年・教科と連携を密にし、キャリア教育や進路指導の充実を図る。</p>	<p>生徒の自己理解推進と積極的な進路学習を促すキャリア教育の充実</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「進路の手引き」「進修館手帳」の効果的な活用法を指導して、計画的な進路学習と自己管理能力を高める。</li> <li>②各種コンテスト等への参加、資格取得や検定試験へのチャレンジを奨励する。</li> <li>③二者面談、三者面談を実施して、各生徒に適した進路実現となるように進路相談を行う。(担任)</li> <li>④講演会や研修会など、保護者への情報提供を充実する。(2回以上:進路指導部・渉外部)</li> <li>⑤進学の可能性を広げる進学補習や小論文指導を実施する。(進路指導部等)</li> <li>⑥適性や能力に合ったきめ細やかな就職指導を実施する。(進路指導部等)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①活用状況の実施状況と成果</li> <li>②参加状況と資格取得及び検定合格状況</li> <li>③進路相談の実施状況と成果</li> <li>④保護者アンケート「進路指導」に係る項目肯定的回答増加(昨年度比)</li> <li>⑤⑥第一志望進路先決定者の増加(昨年度比)</li> </ol>	<p>〇生徒個々の実態把握に努め、計画的な進路指導を行うことで、3年生の高い水準の進路決定と、1、2年生の進路意識の向上やキャリア教育の推進が図られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「手帳」は進路探究の時間等に記入指導実施、自己管理能力向上は改善のきざし。</li> <li>②コンテスト等コロナ禍で状況に合わせて参加、資格取得状況や検定合格率は高水準を維持。</li> <li>③自身の進路についてよく考える(85%)、自己理解の向上や進路選択分野の可能性が広がる傾向。</li> <li>④保護者きめ細やかな進路指導の実施(82%昨年度比-3%)、家庭で進路についてよく話す(79%昨年度比+2%)。</li> <li>⑤⑥第一志望での進路決定率、進学・就職とも昨年度同様(90%1月末現在)。</li> </ol>	A	
2	<p>基本的な生活習慣の確立が見られ、ほとんどの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。特に昨年度は欠席、遅刻者数の減少が顕著であった。一方、SNSの使用を起因とする生徒間トラブルの発生数が増加している。今年度は、様々な悩みを持つ生徒への支援を課題とし、組織的な対応や教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>基本的な生活習慣の定着と個別指導体制の充実</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「凡事徹底」を基本とする生徒指導を、粘り強く組織的に行う。</li> <li>②学年や教科と連携を図り、学校規則を守る継続的な整容指導(各学期)や登校指導(通年)を実施する。</li> <li>③早期で生徒変化に気付くように、生徒声掛けやアンケート調査等、丁寧な生徒観察に努める。</li> <li>④悩みを持つ生徒への校内相談体制と、スクールカウンセラー等、効果的な外部機関との連携を構築する。</li> <li>⑤SNSトラブルを防止する講演会等の実施(1学期)と、問題発生時の組織的対応の充実を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①組織的指導の実施状況と成果</li> <li>②生徒アンケート「学校生活」に係る項目肯定的回答増加(昨年度比)</li> <li>③生徒観察の実施状況と成果</li> <li>④相談体制の実施状況と成果</li> <li>⑤組織的対応の実施状況と成果</li> </ol>	<p>〇「新しい生活様式」を含み、共通意識で指導を進め、生徒も理解して、落ち着いた学校生活を送ることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①③全職員による毎日の登校指導、健康観察、マスク着用、手洗い・消毒の励行。いじめアンケート結果は丁寧な個別対応を実施。</li> <li>②学校生活が充実(89%昨年度比-2%)。</li> <li>④SC、SSW や果事業を活用し、悩みを持つ生徒への支援と個人対応が進んだ。拠点校として近隣学校も参加し、特別支援教育研修会(1月)を実施。</li> <li>⑤SNS 使用についての注意喚起と投稿時の禁止事項を具体的に生徒周知。SNS講演会(12月)を実施。</li> </ol>	A	<p>・規律ある態度の育成と基本的な生活習慣の確立は指導の根幹である。全職員で粘り強く指導を継続し、生徒の自己管理能力を高めていく。</p> <p>・支援を必要とする生徒への、組織的対応が課題となる。情報把握と共有方法、生徒理解とカウンセリング機能の強化に積極的に取り組む。</p>
2	<p>学校行事や部活動に積極的に参加し、学校生活を充実させようとする生徒が多い。今年度は、文武両道、新しい生活様式、職員の負担軽減を課題とし、生徒の主体的行動を促し、自己肯定感・達成感の向上やコミュニケーション能力の育成を図る取組を充実する。</p>	<p>生徒の主体的活動の推進と自己肯定感・達成感の向上</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①部活動加入者を増加するため、新入生や未加入者への指導や広報を積極的に行う。(年度当初)</li> <li>②学校行事の計画・実施に生徒が主体的に参画するように、丁寧に粘り強い指導を行う。</li> <li>③部活動・学校行事の活性化と職員の負担軽減の両立を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①部活動加入率の増加</li> <li>②生徒アンケート「学校行事・部活動」に係る項目肯定的回答増加(昨年度比)</li> <li>③活性化と負担軽減の実施状況と成果</li> </ol>	<p>〇学校行事・部活動とも、状況下に対応しながら綿密に検討のうえ実施、生徒の充実感も得ることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①部活動加入率は昨年度横ばいに止まった。</li> <li>②学校行事が充実(88%昨年度比-1%)。部活動に積極的参加(78%昨年度比-2%)。0</li> <li>③教職員の学校行事・部活動指導は良好である、様々なコロナ禍対応が発生し負担減には至らず。</li> </ol>	A	<p>・行事、部活動に積極的に参加する生徒が多く、保護者からの期待も高い。文武両道を踏まえ、教職員の負担軽減を考えながら、実施できるように取り組んでいく。</p>
3	<p>総合学科・工業科を併置する行田市唯一の高等学校として、本校の果たすべき役割は大きい。今年度は、地域連携を課題とし、これまでの取組を改善しながら推進するとともに、3年目となる「総合的な探究の時間“行田學”」の充実を図る。また、本校の魅力効果を効果的に発信するように広報活動の工夫をしていく。</p>	<p>地域に根差した学校づくりの推進</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①行田市教委・市内関係機関・同窓会等、多くの外部関係者と連携を図り、各種連携事業を充実する。</li> <li>②学校通信の発行と地域への回覧を定期的に行う。</li> <li>③学校HPの内容工夫と更新回数の増加、スマートフォン閲覧が見やすくなるようにしていく。</li> <li>④学校説明会の内容を改善して参加者数を増加する。</li> <li>⑤『行田學』の成果発表会(12月)を実施して、3年間の取組を検証する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域イベント、ボランティア等の参加状況と外部関係者活用成果</li> <li>②発行と回覧の実施状況と成果</li> <li>③内容工夫の実施状況と更新回数増加(昨年度比)</li> <li>④学校説明会参加者数の増加(昨年度比)入学志願者数の状況</li> <li>⑤3年間の取組状況と成果</li> </ol>	<p>〇地域連携は限定的となるが多く、可能な限り実施。『行田學』は1サイクルが終了し一定の評価を得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①イベント等縮小のなか、古代運公園「田んぼアート」、「忍の昔ばなし」挿絵制作。</li> <li>②進修館通信を3回発行、地域配布や回覧をして情報発信ができた。</li> <li>③教科・部活動等でHPを更新(昨年度比増加)、スマホ閲覧を意識して画面を工夫した。</li> <li>④人数制限措置のため、説明会参加者数(-6%)減少。</li> <li>⑤市内行政、地元企業、忍郷友会等、約30名を招待して成果発表会(12月)を実施、好評を得た。</li> </ol>	B	<p>・地域コミュニティの一翼として、本校への期待は高い。生徒の学校生活充実の一助となるような、地域連携を幅広く実施していく。</p> <p>・本校の魅力や情報発信、生徒募集のうえで、HPは欠かせない。掲載内容や更新を組織的に進める。</p>
					<p>実施日 令和4年2月22日</p> <p>学校関係者からの意見要望評価等</p>		